

Rosario Quarterly Information



広報  
ロザリオ

社会福祉法人

ロザリオの聖母会

千葉県旭市野中4017

Tel (0479) 60-0600

ホームページアドレス

<http://www.rosario.jp>

Eメールアドレス

[honbu@rosario.jp](mailto:honbu@rosario.jp)



第25回福祉作文コンクール入賞者のみなさん（平成28年12月3日撮影）

第26回(平成29年度)ロザリオ福祉作文コンクール

福祉作文全体評

県内有数の福祉施設「ロザリオの聖母会」が、未来を担う児童生徒の皆さんに福祉について理解と関心を深めていただこうと、毎年夏季に福祉作文の募集を行って参りました。

今年度は銚子、旭、匝瑳市の一八の小学校から九三作品、銚子、旭、匝瑳市の一〇の中学校から五三作品、併せて一四六の作品が寄せられました。

教育委員会、各市の小学校、中学校の先生方の御協力に対しまして厚く御礼を申し上げます。

【ロザリオ福祉作文コンクールによせて】

豊かさや繁栄を追い続けた日本社会の陰で、障がいを持つ人たち、介護の手を待つ人たちがたくさんおります。これらの人たちに對して、人間が人間として大事にされるあたたかい社会でなければなりません。

未来社会の担い手である小中学校児童生徒に、ぜひ福祉を考える機会を持っていただき

たいと「社会福祉法人ロザリオの聖母会」では毎年福祉作文を募集して、福祉意識をたかめるお手伝いをしていきます。そして関係者のご努力によりたいへん大きな成果を収めて参りました。

「ロザリオの聖母会」は、「医療型障害児入所施設・聖母療育園」「障害者支援施設・聖マリア園、聖家族園、佐原聖家族園」「精神科・内科・海上療養所」及び「障がい者の就労促進事業所・みんなの家」ほか、たくさんの方々の付属施設を持つ日本でも有数の福祉施設で、ここでは医師、看護師、技師、介護員、給食職員、一般職員等合わせて六百余名が、日夜活動を続けております。

ボランティア奉仕の方々もすばらしい方で、洗濯たみから文化活動の指導、慰問、イベントの協力など熱心に取り組んでいきます。

児童生徒の皆さんにこうした福祉施設がロザリオ以外にも各地にあり、たくさんの方が黙々と努力されている実態を作文作りを通

して知っていただき、成長期に福祉に関心を持つことが豊かな人間性を培っていく上でたいへん重要なことであることを実感していただきたいと願っています。

提出される学校の先生方に感謝申し上げます。これからの社会では福祉の問題は避けて通れない重要課題です。そして学校における福祉活動は人間を大事にしていく教育基本法の精神を具現化していくために「人権尊重」「助け合い」「協力」などの実践活動を含んでおります。

先生方の日頃のご指導がこの作文に現れ、これからの社会に生きるしつかりとした児童生徒が育成されつつあるのは本当に心強いものがあります。どうぞこれからもよろしくお願い申し上げます。

また作文を書いた児童生徒の家庭の父母の皆様も「心のあたたかな」「障がいを持った人々への関心の高い」子どもを育ててこられて敬服いたします。こうした子どもたちは将来「弱い者いじめ」家

庭内暴力」などと無縁の成長をしていくものと確信しております。これからも福祉に対して親子ともどもの活動をお願い申し上げます。

平成二十九年十二月

【審査委員】

楠木 正

(元中学校長・指導室長)

松井 安俊

(元中学校長・指導主事)

ロザリオの聖母会評議員

4年生選評

〇1席 旭市立豊畑小学校

浪川侑也さん

【初めて行った老人ホーム】

老人ホームに行つて、いろいろな患者さんのようすをよく見てよかったですね。そして老人の方たちに喜んでもらつてよかったですね。

〇2席 旭市立飯岡小学校

宮内優芽さん

【飯岡福祉センターで学んだこと】

福祉センターでお年よりたちにふれてたいへん良かったですね。

〇2席 旭市立嚶鳴小学校

加瀬寛斗さん

【ボランティア活動をして】

ボランティア活動で障害のある老人や働く人たちを見てよかったですね。自分はどうな世話ができるか考えてみましょう。

〇3席 銚子市立明神小学校

埴紺莉さん

【旭のボランティア体験】

たいへん良い体験をしましたね。認知症の患者さんも多くなりました。体験したことを将来生かしてがんばってください。

〇3席 旭市立中央小学校

越川佳音さん

【私がおはなに行つてみて】

おはなで見たこと、体験したことがよく書けています。働く人お

世話する人も患者さんに対してよく親切にしていますね。

○3席 旭市立共和小学校

石毛煌大さん

【体験を通して思ったこと】

障害のある人たちも一生けんめい仕事をしていることを体験してよかったですね。

### 5年生選評

○1席 旭市立干潟小学校

大木明梨沙さん

【私のひいおばあちゃん】

ひいおばあさんのお世話をよくしてえらかったですね。社会にはお世話を待っている人がたくさんいます。将来かんご師になろうときめたのはえらいですね。

○2席 旭市立共和小学校

丸山心優さん

【楽しかった施設体験】

福祉施設でいろいろ体験したのはえらかったですね。これからも

ボランティアで福祉のようすをよく知ってください。

○2席 旭市立矢指小学校

土屋麻帆さん

【くらしやすい社会にするためには】

介護を必要とする人たちがだんだんふえています。これからも介護についてよく考えて応援してください。

○2席 旭市立干潟小学校

土屋侑一さん

【ふくししせつで知ったこと】

福祉施設でたくさんの方が仕事を楽しくしているようすを見て障害のある人々の生きる姿を見てえらかったですね。

○3席 銚子市立船木小学校

村田明香さん

【私がんばって生きていくこと】

がんばって生きているあなたもえらいし、応援してお世話してくれる人々も立派です。

○3席 旭市立豊畑小学校

山崎遠平さん

【曾祖母とぼく】

曾祖母おばあさんの生きる姿がたいへん良く書かれています。一世紀も生きる姿に教えられることが多いですね。

○3席 旭市立三川小学校

須田律仁さん

【家庭内での介護】

おじいさんの病気について家庭の中で家族が協力して一生けんめいにお世話しているようすがよく書けています。

### 6年生選評

○1席 旭市立滝郷小学校

越川柚梨さん

【ロザリオ福祉について】

障害者でもみんな心の強さがあります。そのことに気づいたのは立派です。そしてまわりの人たちもできるお手伝いをするのも大事です。

○2席 銚子市立双葉小学校

伊藤大晟さん

【もしも願いがかなうなら】

かおるさんに二度と会えなくなったそうですが、老人の介護についてしっかりと把握していることに感心しました。

○2席 旭市立干潟小学校

池田聖捺さん

【おじいちゃんの介護の体験】

介護はたいへんですが、多くの人たちがあたたかくお世話してくれておじいさんも喜んでいいます。

○3席 旭市立共和小学校

飯田ほのかさん

【私にとっての福祉】

だれにもできるお手伝い、福祉について気づいたのはえらかったですね。

○3席 旭市立干潟小学校

向後亜莉沙さん

【温かい幸せな手】

認知症の患者さんがふえました。あたたかくお世話をしてあげましょう。

○3席 旭市立嚶鳴小学校

加瀬陽人さん

【障害のある人】

障害のある人はたくさんいます。差別しないで、明るい社会生活が送れるようにみんなが協力し、援助したいものです。

中学1年生選評

○1席 銚子市立第六中学校

金子瑞季さん

【幸せになるために】

障がいがある兄との生活の中で、様々なかつとうに悩んでいました。普通の人が兄だったらよかった、と思うこともありましたが、しかし、それを乗り越え、誰もが幸せになるために、互いに支え合う社会が大切だと訴えています。

○2席 匝瑳市立野栄中学校

熱田華音さん

【福祉で学んだこと】

高齢者の方は若者に文句をつけ

てくるという偏見をもっていた私は、福祉施設での奉仕体験で一変しました。高齢者の方々は、とても優しく接してくれました。

これから先、もっと高齢化などが進んだ時、それを助けられるのは私達だと述べています。

○3席 匝瑳市立野栄中学校

大木末緒さん

【二つの体験を通して】

福祉施設の高齢者の方々に初めて会った時、少しこわいという印象をもってしまいました。しかし、体験するにつれてやさしく楽しくなりました。高齢者のひとりひとりが明るく、体験している私達も元気をもらいました。この体験を日常生活で生かそうとしています。

○3席 旭市立第二中学校

庄司明莉さん

【私たちができること】

募金活動に参加して募金活動に対する想いが変わりました。貧しい人や病気の子どものためだと

思っていました。私自身が募金をしてくれた人の笑顔から元氣や勇気をいただきました。大人になっても、募金活動などのボランティア活動を続けようと心に誓っています。

○3席 旭市立第一中学校

涉里萌衣さん

【レモネードスタンド】

ガールスカウトの一員として、小児がん募金のレモネードスタンドでの活動を述べています。この活動を通して、これからも周りを見て、人々の役に立つ行動をしていきたいと決意しています。

中学2年生選評

○1席 匝瑳市立野栄中学校

熱田愛佳さん

【貴重な体験】

脳梗塞の後遺症をもっていた祖父が、デイサービスのリハビリで回復し、ひとりですることが増えました。どのようにすればこの

ように回復するのかと思い、デイサービスの施設で職業体験をしました。その体験から、何よりも相手のニーズと思いを大切にすることの重要性を学んでいます。

○2席 旭市立第二中学校

嶋田莉子さん

【祖父の介護】

自分でできないことを何でもやってあげることがやさしさであり、介護だと思っていた私は、祖父の介護を通してそうではないことに気づきました。やってしまったら、回復してきた機能が低下してしまふからです。少しでも自立した状態に近づけるように、見守ることも介護だと認識しました。

○2席 旭市立飯岡中学校

向後凜琉さん

【思いやりの心でつながる笑顔】

以前、動物園に行った時、困っている老人を見かけましたが、助けることができませんでした。そのことをきっかけに、自分にできることを精一杯やることと思いや

りの心をもって行動することが大切だと訴えています。

○3席 旭市立第二中学校

遠藤凧夏さん

【私なりの介護】

九つの病気を患っている祖父を、母と私の二人で家庭で介護した様子がよく書かれています。二人だけでの介護はとても大変でした。そこで、五つの『介護に対するきまり』を作り、実践しました。これからも自分なりの介護を見つけていきたいと思っています。

○3席 銚子市立第五中学校

増田海翔さん

【安心して暮らせる町】

尊敬している大好きな曾祖母の心臓にはペースメーカーが植え込まれている。しかし、ペースメーカーが植え込まれていることは外見ではわからない。障害や病気があっても、安心して暮らしていける社会の構築をめざしている。

○3席 旭市立海上中学校

鈴木那奈美さん

【私のへんこおばあちゃん】

大好きなへんこおばあちゃんが、すい炎で入院した様子を詳しく描写しています。回復し、顔色がよくなり元気に話す姿を見て、本当にうれしくなりました。今は違う施設に居ますが、なるべく会いに行こうと思っています。

中学3年生選評

○1席 旭市立第一中学校

山中梨紗子さん

【職場体験学習を通して】

福祉施設での職場体験学習を通して考えたことを三点に絞って書かれており、文章構成もしっかりしています。三点とも新しい発見や成長した自分の姿があります。そして、福祉施設を利用して人たちはハンデはあるけれど、きつと強いものをもってると考えています。

○2席 旭市立海上中学校

多田奈津那さん

【よりよい未来】

障がい者の福祉施設を訪れて衝撃を受けました。仕事をしている障がい者がとても楽しそうで、一生懸命に、しかし大変そうでした。

この姿こそ、私が支えたい社会のあり方だと思いました。皆が共存しあえる社会をつくりたいと強く思っています。

○2席 旭市立第一中学校

山中紗和子さん

【今後の日本と介護問題】

介護老人保健施設での職場体験と介護離職という社会問題の二つから、介護が必要になったら介護施設を利用することを勧められています。介護施設は充実しているし、利用者は楽しく過ごしているからです。また、介護についての最善の方法についても、これから考えようとしています。

○3席 銚子市立第六中学校

宮内菜摘さん

【私達じこまのじい】

老人ホームでの職場体験学習を通して、今まで深く考えていなかった高齢者のことや老人福祉施設に関心をもつようになりました。そして、今、自分で高齢者の方々にできることはないかと考え、勇気を出してバスの中で高齢者の方に席をゆずりました。すがすがしい気持ちになりました。

○3席 旭市立海上中学校

高野梨奈さん

【つながる親切】

母のような存在だった祖母が脳出血で倒れて、左半身にまひが残ってしまった。病院から自宅に帰ってきた祖母の介護の実際を描いています。家庭での介護は想像をはるかに越えて大変でした。でも、私を育ててくれた祖母だからこそ、がんばれたと思っています。

# ◆優秀作品紹介◆

## 初めて行った老人ホーム

旭市立豊畑小学校

四年 浪川 侑也

ぼくは、夏休みに友達四人で老人ホームにボランティアに行きました。

きっかけは、友達から「おばあちゃんが以前働いていた老人ホームに、紙しばいを読みに行かない。」とさそわれたからです。ぼくは、あまり体験できないので楽しそうだなと思い参加しました。

ぼくは、老人ホームという名前を知っていましたが、どういう人達がいるのかは知らず、お母さんが教えてくれました。一番おどろいたのは、ちほうしようのおばあちゃんの本を読んで、その病気を初めて知った時です。

ぼくのおばあちゃんは、毎日元気に畑仕事をしているし、百一才のひいおじいちゃんは、庭の花を

つんで自分の部屋にかざったりしてすごしているので、病気のお年よりがぼくの周りにはいません。ちほうしようなどの病気の人は、本人もかわいそうだし、お世話する人も苦ろうするし、みんな大変だと思いました。

ボランティアの前日、友達と紙しばいの練習をしました。みやざわけんじの「よだかの星」を読むことにしました。

学校の音読の样につつかえすラスラ読むのがよいと思っていました。お母さん達に「お年よりに聞こえるように、ゆっくりと大きな声ではっきりと読んで方がよいよ。」とアドバイスされました。自分ではゆっくり読んでいるつもりでも、早くなってしまい、何度も注意されてしまいました。

当日、老人ホームのたん当の方からも「耳が遠い人がいるので、ゆっくり話してください。」と言われました。

車いすに乗っているお年よりも、色々な理由があるんだな、

と思いました。

紙しばいの発表は、お年よりと、老人ホームの方と、二十人位の人の前で行いました。きんちょうしましたが、練習のとおりにできてよかったです。

紙しばいを読み終えてホッとしていたら、たん当の方から急に「みんなでいっしょにおどりましょう。」と言われてびっくりしましたが意外にかん単なふりつけでよかったです。

その次に今度は、「歌を歌ってください。」と言われて、みんなで相談して、ぼく達四人全員が歌える歌がよいとなり、学校の校歌を歌いました。

お年よりは楽しそうに見てくれました。その様子を見て、ぼくはうれしくなりました。

友達もみんな同じ気持ちだったのか、「また冬休みに行こう。」と話しました。

今回は紙しばいの練習だけでしたが、次回行く時は、歌も練習して、お年よりといっしょに楽しめる事もしたいと思います。

ぼくはボランティアという言葉を知りませんでした。調べてみると、「自主的に社会活動などに参

加し、ほう仕活動をする人のこと。」と書いてありました。正直、ぼくにはまだむずかしくてよく分かりませんでした。でも、お年よりを楽しませたいと思って自分達で行動する事が、ボランティアなんだとお母さんに教えてもらいました。

相手が楽しんでくれて、そして何よりぼく達も楽しむ事がとても大事なのだと思います。

## 私のひいおばあちゃん

旭市立干潟小学校

五年 大木 明梨沙

私のひいおばあちゃんは、私が小学校三年生の時に亡くなりました。亡くなる六か月前から私はひいおばあちゃんのかいごをしました。ひいおばあちゃんは、少しずつ自分のことができなくなってきました。

かいごの一つ目は、おむつ交かんです。

「くさくて、やだな。」と私は思い、初めはお母さんが

やっている場所からはなれていました。でも、だんだんお母さんがやっているのを見て、おしりふきを渡したり、新しいオムツを取りに行ったりできるようになりました。ひいおばあちゃんもオムツ交換をするので、うれしそうでした。そして必ず、

「ありがとう」  
と言ってくれました。大変だったけど、とても良い経験になりました。

二つ目は歩行かいじよです。ひいおばあちゃんは、ひとりで歩くのはむずかしく、右側につえを持ち、私が左側で手をつないで歩きました。歩くときはゆっくりで、一步一步、ひいおばあちゃんにあわせて歩きます。だん差があると、きや小さなものが落ちていて見えないときは、ひいおばあちゃんにそれを伝え、ころばないように注意しました。

三つ目はお風呂のかいじよです。おばあちゃんをせんとうまで連れて行きました。そこでもすべらないよう、手をにぎり、ゆっくりに歩きます。せ中は届かないので私が洗ってあげました。そしたらひいおばあちゃんが、

「ありがとう。」  
と言ってくれました。私はとてもうれしかったです。

四つ目は、ご飯のかいじよです。ひいおばあちゃんは少しずつ食よくもなくなってきました。かたい物だと食べられないので、おかゆやに物、うどんなどやわらかい食べ物などお母さんが作り、それをひいおばあちゃんに持って行きました。私はお母さんといっしょにひいおばあちゃんにご飯を食べさせました。ひいおばあちゃんは、

「とてもおいしいよ。」

と言ってくれました。とてもうれしかったです。ひいおばあちゃんは、亡くなる一か月前から家に住むのが難しくなり、ひいおばあちゃんほろろ人ホームに入りました。お父さんとお母さんが仕事を終わったあと、毎日おばあちゃんに会いに行きました。いっしょにずいずいづいころばしや、からすの歌を歌ったりしました。おばあちゃんは一  
日、一日小さくなって



いき、あまり話もできなくなってきました。ひいおばあちゃんが亡くなる前に、

「おばあちゃんはだれが一番好き？」

と私が聞くと、

「明梨沙のお母さんだよ。」

と言いました。私は、お母さんが一番好きと言われてショックでした。けれども、毎日、仕事から帰ってきて、ひいおばあちゃんのお世話をしていたから、ひいおばあちゃんにお母さんの気持ちも伝わっていたのかなと思いました。

ひいおばあちゃんは亡くなりました。すごく悲しくて、なみだがたくさんたくさんあふれ出てきました。お母さんは亡くなった時は泣いていなかったのに、ひいおばあちゃんがやかれてしまう前、大泣きをしていました。とてもつらかったです。でも、ひいおばあちゃんのさい後に、お母さんか  
いごができて良かったなあと思います。

私のしょう来の夢は、かん護師になることです。今回ひいおばあちゃんをかigoしたことをいかして、人にやさしいかん護師になりたいです。

## ロザリオ福祉について

旭市立滝郷小学校

六年 越川 柚梨

私は最初に「障害者」という言葉を聞いて思ったことは「大人なのに身長が低い」「うまく話ができない」「生まれつき体が不自由」という印象でした。だから「障害者」は「だれかに何かを手伝ってもらわないとできない人」と思っていました。でもその考えは、とても失礼な事で、まちがっているという事に気がつきました。なぜなら、目が不自由なら点字を勉強して覚えるし、耳が不自由なら補聴器、足が不自由なら車イス、義足などと、不自由なところを補える道具があり、そしてその道具をみんな使いこなしているのです。私達と同じように生活できているのです。生まれつき障害をもって生まれてくる人、事故や病気障害者になってしまふ人がいます。でもみんなとても強いと思います。心が強いのです。私なんかでは、とてもかなわない強さを

持っている人達だと思います。

毎年、テレビの24時間テレビで障害者の人達が、色々な事にチャレンジしているのを見ます。目の見えない人が海を泳いでいたり、義足の人が山登りにチャレンジしていたのを覚えています。そして目標が達成できた人、残念ながら目標を達成できなかった人と様々ですが、たとえ目標が達成できなかったとしても、とても感動したのを覚えています。



車イスダンスの人達に笑

よく回ってね、すごかったよ、上手だったよ」と「すごい」という言葉でしか伝えられなかった事を覚えています。その人達のダンスを見ていたら、楽しくなり、笑顔になりました事も覚えています。

伝ってもらわないと出来ない人達」と思っていた自分がとてもはずかしく思えました。いろんな事にチャレンジしている姿は、とても素敵で、強さがあふれていて見ているんだか勇気をもたらった気持ちになりました。

少し前に道徳の授業で、上半身しかない男の人や手足がマヒで動かないので口に筆をくわえて、素

晴らしい絵を書く人がいる事を知りました。それから、学校に車イスダンスの人達が来てくれた事がありました。その人達は下半身が動かないので車イスが足のかわりになり、とても上手に使いこなしてその上、ダンスまでおどれるのです。私は家に帰ってお母さんに車イスダンスを見た事を教えるのに「すごかったよ！良かったよ！回ってね、すごかったよ」と「すごい」という言葉でしか伝えられなかった事を覚えています。その人達のダンスを見ていたら、楽しくなり、笑顔になりました事も覚えています。

顔をもらったのです。こういった人達を見てみると自分も「がんばらない」という気持ちになります。何をがんばるの？と聞かれると具体的には、はっきり分からないのですがとにかく「あきらめる」という事をしないようにしようと思えました。ちょうど戦する前から「どうせやっても出来ないし」とやらずにあきらめていた

### 幸せになるために

銚子市立第六中学校

一年 金子 瑞季

私の兄には、障害があります。でも、障害者だと思いがら接したくないし、他の人にそう思われたくないと思っています。でも、知らんぷりしてほしいわけではなく、兄のことを理解してほしいという気持ちです。こんなに偉そうに語りたくないけれど、それが私の本当の気持ちです。

兄が周りの友達とちよつと違うなど思ったのは、私が物心ついた頃でした。幼かった私は、兄と遊んでもらいたくて、かまってほしくて、いつもちよつかいを出していました。すると兄は、しゃべらない代わりに、笑ったり、怒ったり、何も反応せずに自分のやってることにただただ集中していたりという感じでした。反応してくれたら嬉しかったけれど、やっぱ一緒にしゃべりできないことに、なんで？と思っていました。そして、母に聞いてみたので

事が今まではありました。がまず「やってみよう！」という気持ちを持つことが大事なんだなと思いました。それは私が障害を持った人達に教わったことです。私たちが、障害を持った人にそういった事を教わっているということに気がつき、そして障害ということにもっと理解してくれる人達が増えると、とても温かい社会になっていくんだろうなと思いました。車イスを上手に使いこなしていても、少しの段差、まして階段などは車イスでは、上り下りできません。目の不自由な人が立ち止まってしまう場所もあるかもしれません。そんな時、少しだけ手をさしおける、困っている様子がわかれば「どうしたんですか？」「何かお困りですか？」など、たった一言、声をかける勇気があれば、思いやりがあれば何かが変わってくるのかなと思います。

でも私たち子供だけでは、何かを変えるのはとても、むずかしいのです。だから私たち子供だけではなく、大人の人も、もっとみんなで協力して、温かい社会が作っていただければいいのかなと思います。

す。すると、母は言いました。

「お兄ちゃん、周りの子と少し違うけれど瑞季のお兄ちゃんということはかわらないだし、少し難しいけどわかってあげてね。」と。はつきりとした口調だけど、なんだか悲しそうに私の目をまっすぐ見て言う母に、私はわかった、と言いました。

月日が経って、私も兄も、お互いに話せるようになりました。でも、兄の言うことがよく理解できないことが、多々、ありました。そして、こちらの言うことが伝わらないこともありました。正しく言葉を伝え合う、会話するということ、こんなに苦労するとは思っていなかった私は、一時期、兄と会話することが嫌になっってしまったことがあります。正直、普通の人がお兄ちゃんだったら良かったのに、と思うこともありました。お兄ちゃんだけが特別扱いか、とねたんでしまうこともあります。そんな自分が許せなくて、私の心が汚くなっていくようにでした。そんな自分が本当に嫌で、幼い私も、私なりに悩んでいたことをよく覚えています。

そして私の父は、特別支援学校

の先生でした。そのため、よく父から特支に通う子たちの話を聞いたり、行事に私も行ったりしていました。だから、自然とそういう人達と接することに慣れていました。嫌だとも思わないし、差別するような目をする人、言葉を発する人に、怒りを覚えていました。

難しいことはわからないけれど、同じ人でしょ？支え合わないといけない仲間だよ？どうしてわかってあげられないの？と。ただただ悔しかったです。でも、そんなことが言えるほど、怒れるほど、私も障害を持つ人達のことを理解してあげられていたのでしょうか。そう思うとやはり、はつきり答えられなかったかもしれない。

先ほど私は、どうして普通の人がお兄ちゃんじゃないの？と思うたと言いました。けれど、普通って何だろう？と、最近思うようになったのです。障害がない、だったらその人は普通だね、と思われるのでしょうか。それ差別じゃない、と私は思いました。その障害をもった人は、みんなと同じように、みんなと一緒に、幸せに過ごすことはできないのでしょうか。いいえ、そうではありません。私

の兄は障害があっても、毎日楽しんでに日々を送っています。もちろん、伝わらないことがあったり、少し特別な方法をとらなければいけないことがあったりします。それでも、兄は毎日学校に通っているし、勉強をして、友達がいって、優しい先生がいて、楽しそうにしています。兄を見てみると、仲間って大事だな、家族って大事だな、支え合っているから私は幸せに過ごせているんだな、と気が付かせてくれます。

この世の中にいる障害をもった人全員が、私の兄のように幸せかはわかりませんが、けれど、幸せになる権利はもっています。差別されたいとは絶対に思っていないです。人は支え合って幸せになるのだから、周りの人が気づいてあげて、理解をして、手をさしのべることが大切だと、私は思います。



## 貴重な体験

匝瑳市立野栄中学校

二年 熱田 愛佳

私は七月に、社会体験学習の一環として職業体験に行きました。体験させていただいた所はデイスーツ店です。選んだ理由は様々ですが、特に祖父のことが大きく影響しています。

私の祖父は四年前に脳梗塞を患い、一年ほど入院していました。退院したものの、左手足に麻痺が後遺症として残ってしまいました。歩行やお風呂、食事など今までは当たり前で自分できていたことも、補助なしではできなくなりました。

そこで少しでも回復するため、デイスーツに通うようになりました。通い始めると、歩くスピードはゆっくりですが、杖をつきながら少しずつ自分で歩行できるまでに回復し、一人でできることが増えました。

どのようなリハビリをすればここまで回復するのか、物事を一人

で行うのが困難な方とはどう接するのかなど、大いに興味をもちました。そこで、デイサービス関係の施設で体験してみようと思ったのです。

体験初日、初めて利用者の方を目にすると、思っていた以上に手足の不自由な方や車いすの方が多く、びっくりしました。緊張や戸惑いもあり、どうすればよいかわからずにいました。その時、スタッフの方々が利用者の方々一人一人に挨拶をし、調子を伺っているのを見て、私も挨拶ならできると思い声をかけました。

その時印象に残ったことは、スタッフの方々のコミュニケーションの力です。毎回多くの方が利用されるのに、前回話した内容を覚えていて、来られた方全員を回って話しているのを見て、すごいなと思いました。そして、コミュニケーションをとることはとても大事だと改めて感じました。

リハビリが始まり見学していたら、「見ているだけじゃつまらないでしょ、一緒にやろうよ。」と声をかけてくださり、とても嬉しかったです。その一言のおかげ



で、他のことも積極的に手伝うことができました。また、休憩時間以外は休むことなく働くことも知り、働くことの大変さも知ることができました。

二日目、初日の体験を生かしお手伝いしていると、「移動したいから手伝って。」と声をかけてくださいました。近くのいすを片付けて歩くスペースをとり、

「どうぞ。」  
と言ったら、近くにいた方に、「その方は目が不自由なんだよ。」と言われ、びっくりしました。自分では全く気づきませんでした。動揺していた私を、スタッフの方々がサポートしてくださいました。単に見て判断するのではな

く、利用者一人一人の事情を把握することが大切だと思いました。

この時は、昨年学校で行った「福祉体験」を思い出しました。目にタオルを巻き、階段や廊下を歩くといった体験です。何も見えず、どこに何があるか分からない恐怖感がありました。きつと、利用者の方も同じような気持ちだったと思います。

これらの経験から私が学んだことは、相手の気持ちになって行動するということです。気持ちを理解せずに行動してしまうと、相手に混乱と恐怖感を与えてしまうからです。だから、そのことに気をつけながら接しなければならぬと思いました。

三日目。店内を見て、段差が一つもないことに気づきました。年をとると筋力の低下で足が上がりなくなり、つまずきやすくなるためだそうです。こういった、利用者の方が過ごしやすい環境作りをしていることも、知ることができました。

今回は三日間だけの体験でしたが、学んだことはたくさんありました。障がいを持っていたり体が不自由だったりする方と接すると

きは、何よりも相手のニーズと思いを大切にすることがいかに重要か、考えさせられました。

ただリハビリをするのではなく、時間をかけてでも相手のペースに合わせ、一歩ずつゆっくりとリハビリをすることが大切なのだと思います。

祖父も、今回お世話になったスタッフの方々のようなお仕事をされている人のおかげで、回復できたのだと思います。

私は将来、スタッフの方々のような人の助けになる仕事をしたいです。そして、今回の経験を生かし、多くの方を笑顔にしていきたいです。

### 職場体験学習を通して

旭市立第一中学校

三年 山中 梨紗子

私は、中学二年生の夏休みに実施された職場体験学習で福祉施設に行きました。そのときの活動を三つのテーマに分けて、話そうと思います。

一つ目は、施設見学についてです。体験日の初日に施設見学をしました。施設見学では、実際に入居者の方が生活している居室やデイルームなどの様々な場所を見て回りました。そこには、自分が想像していた以上に入居者が便利に生活できるような工夫が多くありました。その中で、一番感動したのは洗面所です。いつも利用している洗面所は、奥行きがあり、水栓が届きにくいものです。しかしここでは、金具を取り付け長くし、押しやすい工夫がされていることに驚きました。他にもまだあります。洗濯機の上のボタンと下のボタンをひもでつなぎ、下のボタンを足で踏むと、同時に上のボタンも押され、電源が入る仕組みになっていることにも感心しました。私は、様々な工夫を見たり、実際に体験したりして、利用者が困らず一人で生活できるようにするための職員の方々の努力を知りました。そして利用者に対する優しさや愛情をたくさん感じる事ができました。

二つ目は、車イス体験についてです。この体験は二日目の最初に行いました。私はこの体験を通して

て見方が大きく変わりました。体験する前の私は、車イスについて自分の足で動かなくても手で押すだけで楽に動く便利なものだと思いで込んでいました。しかし、自分が思っていた簡単なものではありませんでした。それとはまったく逆で、こちらの想像を越える大変さや苦労があることを実感しました。坂道の上り下りや段差を乗り越える体験で私のなかにわきあがってきたのは、ただ、「怖い」という感情でした。それに自分の手で車イスを押すことも坂道を上ることも大きな力が必要だと知りました。私は実際に車イスに乗って一つの坂道や段差を乗り越えるためには「怖さ」に勝つことが必要であり、誰かが手伝うことでどれだけ負担を軽減できるかを理解することができました。また、障がいをもっている方は私たちが気づかないところで困っているということを知りました。困っている人を助けることは当たり前のことです。これからは、この当たり前のことを実行していこうと思えます。

三つ目は、デイサービスでの体験についてです。私の目標は「福祉

社について詳しく知る」というほかにもう一つありました。それは、「利用者の人とたくさん会話ををする」という目標でした。その目標を立てたのは、人見知りの自分から一步成長した自分になれるチャンスだと思ったからです。しかし、緊張して自分から話しかけられず、ほんのわずかの会話しかすることができませんでした。けれども、一人の女性利用者の方が私に話しかけてくれて、緊張が少し解きました。二日目は私からその方に話しかけることができて、自信につながりました。

このように私は職場体験学習を通して、普段の生活ではできない貴重な体験をし、充実した時間を過ごせました。

その時間の中で、一番私の心に響いたのは、デイサービスを利用している男の子とのことです。バスに乗って別れる前にその男の子と握手をしました。私はそのとき、腕をぎゅっと強く握りしめられました。どうして、その男の子が私の腕を握ったのか、本当の理由は分かりません。けれども、その男の子の笑顔は、「一緒に遊んでくれてありがとう」と感謝の言

葉を表しているように見えませんでした。私は、少しとまどいました。しかし、私と別れたくないようにも見えて、うれしかったです。私は、その男の子から大きな力や勇気をもらいました。

これまで私は福祉施設を利用している人たちは守ってあげなければならぬ弱い人たちだと勝手に思っていました。しかし、ハンデはあるけれども、それに負けずに、懸命に毎日を生きている人達はきつと強いものを持っていると思いました。

私は機会があれば、たくさんの方と利用者の方とつと会話をしたいと思えます。そして互いを知ることができるようになったら、「福祉」の理解につながっているのではないかと思います。



# 第26回福祉作文コンクール入賞者

## 小学4年生の部

1席 旭市立豊畑小学校

浪川 侑也

2席 旭市立飯岡小学校

宮内 優芽

2席 旭市立嚶鳴小学校

加瀬 寛斗

3席 銚子市立明神小学校

埜 緋莉

3席 旭市立中央小学校

越川 佳音

3席 旭市立共和小学校

石毛 煌大

## 小学5年生の部

1席 旭市立千潟小学校

大木 明梨沙

2席 旭市立共和小学校

丸山 心優

2席 旭市立矢指小学校

土屋 麻帆

2席 旭市立千潟小学校

土屋 侑一

3席 銚子市立船木小学校

村田 明香

3席 旭市立豊畑小学校

山崎 遼平

3席 旭市立三川小学校

須田 律仁

## 小学6年生の部

1席 旭市立滝郷小学校

越川 柚梨

2席 銚子市立双葉小学校

伊藤 大晟

2席 旭市立千潟小学校

池田 聖捺

3席 旭市立共和小学校

飯田 ほか

3席 旭市立千潟小学校

向後 亜莉沙

3席 旭市立嚶鳴小学校

加瀬 陽人

## 中学1年生の部

1席 銚子市立第六中学校

金子 瑞季

2席 匝瑳市立野栄中学校

熱田 華音

3席 匝瑳市立野栄中学校

大木 未緒

3席 旭市立第二中学校

庄司 明莉

3席 旭市立第一中学校

涉里 萌衣

## 中学2年生の部

1席 匝瑳市立野栄中学校

熱田 愛佳

2席 旭市立第二中学校

嶋田 莉子

2席 旭市立飯岡中学校

向後 凜琉

3席 旭市立第二中学校

遠藤 凪夏

3席 銚子市立第五中学校

増田 海翔

3席 旭市立海上中学校

鈴木 那奈美

## 中学3年生の部

1席 旭市立第一中学校

山中 梨紗子

2席 旭市立海上中学校

多田 奈津那

2席 旭市立第一中学校

山中 紗和子

3席 銚子市立第六中学校

宮内 菜摘

3席 旭市立海上中学校

高野 梨奈



- 医療保護施設 海上療養所
- 訪問看護ステーション ソフレイア
- 就労継続支援B型事業所 ワークセンター
- 医療型障害児入所施設・療養介護事業所 聖母療育園
- 生活介護・児童発達支援・放課後等デイサービス(重点) 聖母通園センター
- 児童発達支援事業 旭市子ども発達センター
- 児童発達支援事業 旭市子ども発達センター
- 障害者支援施設 聖マリア
- 障害者支援施設 聖家族
- 障がい者の就労促進事業所 みんなの家
- 生活介護事業所 聖家族作業所
- 共同生活援助事業所 ナザレの家あさひ
- 高齢者支援事業 口ザリオ高齢者支援センター
- 口ザリオ訪問介護事業所
- 通所介護・介護予防通所事業所 デイサービスセンター・ローザ
- 障害者支援施設 佐原聖家族園
- 生活介護・放課後等デイサービス 聖ヨセフつどいの家
- 共同生活援助事業所 ナザレの家かとり
- 地域生活支援センター 友の家
- 中核地域生活支援センター 海匝ネットワーク
- 障害者就業・生活支援センター 東総就業センター
- 香取市相談支援事業 香取障害者支援センター
- 障害者就業・生活支援センター 香取就業センター
- 障害者相談支援事業 みらい